

【日本の大学】第78回——鹿児島大学：歴史、風土活かし社会発展に貢献

鹿児島大学は、九州南端の鹿児島県鹿児島市に本部を置き、古くは江戸時代の薩摩藩の藩校にまで起源をたどることのできる歴史や、風土、産業を踏まえた国立大学である。現在は、9学部、9大学院研究科を擁し、およそ11000名の学生が在籍している。

大学憲章では、この地域が、日本列島の南方に位置し、アジア地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地域であること。日本の変革と近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきたこと。こうした地理的特性と教育的伝統を踏まえて、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献することで総合大学を目指す、と謳っている。



大学インフォメーションセンター

藩学造士館が淵源

以下、鹿児島大学のホームページなどから大学の歴史と現況をみていこう。

大学の起源は、江戸時代の中期、この地を治めた島津家25代（薩摩藩第8代藩主）の島津重豪が創始した「藩学造士館」にまでさかのぼる。重豪は西洋の文化に強い関心を持ち、

中国語にも堪能であった。暦学の研究や天体観測を行う明時館天文館の創設、各種書籍の編纂・出版といった文化事業にも積極的で、薩摩藩における文化発展の礎を築いたとされる。

1773年に重豪は教育を通じて藩に有益な人材を育てることを目的に、文武修養のための聖堂と武芸稽古場を創設。1786年には聖堂を「造士館」、武芸稽古場を「演武館」と改名した。講義は儒学を中心とし、組頭や城下士、外城士が聴講したほか、学問の志があれば家来や町人、城下士の子どもなども末席か別室で聴講が許されたという。

重豪を曾祖父にもつ島津家28代島津斉彬(11代藩主)は重豪の影響を強く受けたとされ、学問を学び、当代一流の蘭学者と積極的に交流した。世界情勢を見据え、日本の国力向上を目指し、藩主となるとすぐに造士館の改革に着手。時局に対応でき、国の役に立つ人材の育成を理想に掲げた。和漢の書物だけでなく西洋の書物を熟読し、国際情勢に対応できる実学の必要性を強調した。また、藩内だけでは「井の中の蛙」になるとして、盛んに藩外への遊学を勧め、これがのちの薩摩藩英国留学生の派遣につながっていく。

幕末の動乱期においては、造士館出身の人物が多数活躍したことが知られており、西郷隆盛や大久保利通といった明治維新の立役者も造士館で学んだといわれている。

藩学造士館は1871年(明治4年)に廃校となったが、1884年、西南戦争(1877年)を経て有望な若者を数多く失った鹿児島現状を憂えた旧薩摩藩主で公爵の島津忠義が教育機関の設置を求めて多額の寄付を行い、県立中学造士館が設置された。

その後、何度かの学制の変更を経て、1901年に第七高等学校造士館が設置され、「造士館」の名を冠した地方の最高学府が誕生した。校舎は島津77万石の本城であった鶴丸城跡に建てられた。



学習交流プラザ

文理、教育、農、水産4学部でスタート

この旧制第七高等学校造士館をはじめ、師範学校、農林、水産といった県内の各種高等専門学校を統合して1949年に発足したのが新制の国立鹿児島大学である。発足の時には、文理学部（一般教養部を含む）、教育学部、農学部、水産学部が置かれた。

このうち第七高等学校を母体として発足したのが文理学部である。文系と理系の複合的な学部であり、その後、学部の専門性を高める動きの中で文系分野と理系分野がそれぞれ別の学部として独立した。文系の総合学部として1965年に設置されたのが法文学部である。

法学、経済学、文学などそれぞれの専門分野をコアとして学習しながら、他の学問分野の基礎的知識と能力を身につけることを目指している。

法文学部は2017年に学部の改組を実施し、それまでの法政策、経済情報、人文の3学科制から法経社会、人文の2学科制移行した。2学科のうち法経社会学科の下には法学、地域社会、経済の3コースを、人文学科の下には多元地域文化、心理学の2コースをおいた。学部学生は、このいずれかのコースに所属し、自己の専門領域を学びながら、幅広く体系的にほかの学問を学ぶ体制となっている。地域的課題の解決に必要な知識と能力の育成に加えて、海外研修など多くの国際性豊かな科目を配置して、グローバルな視点から現代社会の諸課題を考え、解決する能力の育成にも取り組んでいる。

文理学部から理系分野を分離して 1965 年に誕生したのが理学部である。数学、物理学、化学、地学の 4 学科だったが、その後生物学科が加わり、1997 年には、教養部の廃止に伴って学科の改組が行われ、数理情報科学科、物理化学科、生命化学科、地球環境科学科に再編された。さらに 2020 年には、理学科 1 学科の中に、数理情報科学、物理・宇宙、化学、生物学、地球科学の 5 プログラムへと改組されている。大学院は 1998 年に工学部と統合した理工学研究科となっている。



教育学部グラウンド

教育学部は 1875 年に設立された小学校授業講習所に起源を持ち、鹿児島師範学校などを経て鹿児島大学教育学部として発足した。1994 年度からは、学部卒や現職の小・中・高校の教師も入学できる大学院教育学研究科が開設された。2017 年度からは学校教育教員養成課程と特別支援教育教員養成課程の 2 課程となり、2020 年度からは学校教育教員養成課程の 1 課程に再編された。同課程の中に初等教育、中等教育、特別支援教育の 3 コースとなっている。

工学部は 1945 年に設立された鹿児島県立工業専門学校から始まっている。1949 年には県立鹿児島大学工学部となり、鹿児島大学工学部に移管されたのは 1955 年である。その後、大学院研究科が設けられたほか、組織増設、改組などが実施された。現在は、先進工学科（機械工学、電気電子工学、海洋土木工学、化学工学、化学生命工学、情報・生体工学の 6 プログラム）と建築学科（建築学プログラム）の 2 学科 7 プログラムとなっている。高度な専門

職業人の養成教育を行い、一人一人の学生が自ら向上心を持って主体的に学修し、「自主自立と進取の精神を有する人材の育成」を目指している。



稲盛記念館

特色ある農・水産学部

農学部は、1908年に創設された鹿児島高等農林学校が始まりである。1944年には鹿児島農林専門学校となり、1949年の新制鹿児島大学発足とともに農学部となった。鹿児島は日本有数の食料基地であり、温帯から亜熱帯へ南北 600 kmに及ぶ多様な自然環境を背景にフィールドワーク教育を重視し、豊かな人間性と現場での実践力や応用力、広い視野と国際性を持った創造性豊かな人材の養成に努めている。農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科の3学科に分かれ、各学科に2~3のコースが設けられている。

水産学部は1908年の設立された鹿児島県立商船学校に端を発する。鹿児島商船学校、鹿児島水産専門学校に変わった後、1949年に鹿児島大学水産学部となった。鹿児島から東南アジア、南太平洋という広い水域を活動の場としている。マグロやエビなどの水産資源がなくならないようにきちんと管理しながら漁獲すること、それらの資源を大切でおいしい食料として無駄なく利用すること、それらの資源が生まれ育つ環境を守ることに取り組んでいる。水圏科学、水産資源科学、食品生命科学、水産経済学、水圏環境保全学といった分野に分かれて教育、研究を進めている。



出航するかごしま丸

このほか農学部、水産学部共通の国際食料資源学特別コースが設けられている。東南アジア、南太平洋、アフリカを中心とした国際社会を対象として、食料資源の持続的生産と合理的利用の分野の専門知識を修得し豊かな世界観と倫理観を備え、グローバル化する産業社会に参画し、国際社会に貢献できる人材を養成することを目指している。

医学系の学部としては、医学部、歯学部、共同獣医学部がある。医学部は、明治維新直後の1869（明治2）年に薩摩藩が英国人医師で医学教育者のウィリアム・ウイルスを鹿児島に招いて西洋医学校と附属病院を設立したのが始まりである。医学校には全国から数多くの優秀な希望者が集まり、当時最新の英国式西洋医学を修得した。医学校は西南戦争によって閉校し、その後、鹿児島県立医学校が設置されたが、鹿児島における医学教育の歴史はそこで一度、途絶えてしまった。第2次大戦中の1943年に医学部医学科の母体となる鹿児島医学専門学校が創立され、以後、医科大学、大学医学部として発展、1955年に国立に移管されて鹿児島大学医学部医学科となった。医学部保健学科は、1950年に鹿児島県立看護学校としてスタートし、鹿児島大学医療技術短期大学部を経て、1998年に鹿児島大学医学部保健学科となっている。

歯学部は1977年に設置され、南九州・沖縄地域で唯一の歯科医学教育の拠点としてこの地域の歯科医療の教育研究の中心的役割を担っている。

共同獣医学部は、1939年に鹿児島高等農林学校に設置された獣医学科が前身。農学部獣

医学科を経て、2012年に鹿児島大学の9番目の学部として設置された。山口大学と共同で設けられたもので、共同学部としては全国で初めてである。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師を養成することを目指している。



学生が行きかう北辰通り

海外の大学との学術交流協定は、27か国・地域、95機関と締結している。協定校のうち「学生交流の覚書」を締結している大学との間で、学生を相互に派遣し、受け入れる交換留学（短期留学）プログラムがある。

外国人留学生数は、41か国・地域から294名である。（2022年5月現在）外国人留学生に対しては、英語版や韓国語版の留学生ハンドブックがあり、日本語学習・生活ハンドブック（文化庁）や留学奨学金も用意されている。

学生数は、学部が8571（うち女性3519）名、大学院が1559（うち女性442）名である。

学長は佐野輝氏である。神戸大学医学部医学科を卒業、愛媛大学大学院医学研究科博士課程修了（医学博士号取得）。愛媛大学医学助教授などを経て、1996年鹿児島大学医学部助教授となり、2002年に同教授、2013年同医学部長などをへて2019年から現職。

日文：滝川 進
写真：鹿児島大学 HP